第８２号　2016 年５月 31 日

# 東日本大震災 復興･支援活動ニュースレター
## カトリック仙台司教区・カリタスベース
（宮古･大槌･釜石･障がい者センターかまいし･大船渡･米川･石巻･福島デスク･原町･もみの木･CTVC）

発行人：平賀徹夫
〒980-0014 仙台市青葉区本町 1-2-12
カトリック仙台司教区事務局
TEL022-222-7371　Fax022-222-7378
1）義援金振替口座：02260-9-2305
名義：カトリック仙台司教区本部事務局
2）支援金振替口座：00170-5-95979
名義：カリタスジャパン

震災から丸５年を迎え、東日本大震災の被災地では、仮設住宅の空き部屋が目立つようになり、少しずつではありますが仮設住宅閉鎖も進んでいます。一方で、復興公営住宅の問題が浮き彫りになってきています。そこで今回は、（公財）トヨタ財団東日本大震災特定課題担当　本多史朗さんの「復興公営住宅が抱える２つの問題への取り組みについて」の講演内容をご紹介します。また、カリタス石巻ベースにおける最近の活動の様子と、５月からカリタス福岡・熊本支援センターが、熊本地震の被災地におけるボランティア募集を開始しましたので、ご紹介させていただきます。引き続き、東日本大震災と熊本地震の被災地へのご支援、ご協力をよろしくお願い申し上げます。

## 復興公営住宅が抱える２つの問題への取り組みについて

４月 27 日に行われた第 25 回全ベース会議時の講演会内容と、１月に福島県で行われた福島ブロック会議時の講演会内容のうち、まだご紹介できていなかった部分とを併せてご紹介させていただきます。

### ２つの問題（内側での孤立･外からの孤立）への取り組み

沿岸部の復興公営住宅が抱える２つの大きな問題について、どのような取り組みが行われているのかについて、ご紹介します。

※全ベース会議時、福島ブロック会議時の講演ともに同内容です。

**「内側での孤立」**

復興公営住宅の内部での孤立を避けるために実践されている方法には、次のようなものがあり、それらの方法を実践する中で、復興公営住宅の敷地には、少しずつだが変化が生まれてくる。

・*茶話会や映画会などのイベントを実施*
イベントを実施することで、両隣を越えた人間関係を作る。映画会は、人見知りの男性が出てくる。茶話会は、もっともよく用いられるが、常連の集まりになりやすい傾向がある。
・*夏祭り*
復興公営住宅を単位とした夏祭りができると、内部の人間関係や役割分担がはっきりできるようになる。しかも、外部の人も呼べるようになる。これができるようになると、大きな前進。
・*敷地内の緑化*
無機質な復興公営住宅の敷地内に、花や野菜を植える。敷地に入居者が出やすくすると共に、共通の話題を作る。併せてベンチなども作ると効果は高い。

ある市の復興公営住宅の入口に掲げられた看板

**「外からの孤立」**

これを避ける取り組みの方法は、発展途上で、次のような試みが行われている。

・大手のスーパーに補助金を拠出して、移動販売車を回らせる
・NPO に補助金を拠出して、移動販売車を回らせる

しかし、なかなか採算ベースには乗らないため、長続きさせるのは難しい。しかも、販売している商品がコンビニの商品と似たようなものが多くなるため、今一つ入居者の方々の購買意欲がかき立てられない。その一方で、個人商店的なお総菜屋さんが復興公営住宅を回ると、結構人気がある。買い手のニーズが直に店主に伝わるからかもしれない。また、近い将来には、入居者の方々が、輪番で外のスーパーに買い物に行くような仕組みを作る必要も出てくるだろう。ただし、これは人間関係の問題があるため、ある程度はコミュニティづくりが進んでいるような復興公営住宅で先導的な試みを行うことになる。

講演会には、小教区として仙台市内で復興支援の活動をされている方々にもご参加いただきました。

次に、福島ブロック会議時の「福島で復興公営住宅に対する支援をする際には･･･」についてご紹介し、その後、全ベース会議時の「市民としての仙台の皆さまがなしうること」について、ご紹介します。

### 福島で復興公営住宅に対する支援をする際には･･･

福島で復興公営住宅に対する支援をする際のガイドラインは、次の３点に絞ることができると思う。この理由は、福島県における次の３つの特徴が関係している。

**《3 つのガイドライン》**

・細く長く支援する⇒過大な期待をしない
・支援する対象との距離をきちんととる⇒対象と一体化しない
・全国組織との連携をする⇒狭い地域に閉じこもらない

**《福島県における３つの特徴》**

特徴①住民の方が帰属する単位が小さい
特徴②行政機構の力が弱体
特徴③全ての道がローマに通じていない
※上記３つの特徴は、お互いに関係している。

***特徴①住民の方が帰属する単位が小さい***

福島県において、住民の方が帰属する単位は、市町村という単位よりも、江戸時代にまでさかのぼる「字」（あざ）という小さな単位(地域)と重なることが多い。そして、その地域が、より社会関係の中で存在感が大きいものである。結果として、帰属する地域の外側の人たちとコミュニケートする経験を積んでいない、言い換えれば、外の人との協力が難しいといえる。また、福島県は、会津、中通り、浜通りという３つの地方に区分けされる。この３つの地方を結びつけるようなシンボルがない。さらに付け加えると、原子力被災者と津波被災者の間の緊張の背後には、この問題がある。

***特徴②行政機構が弱体***

　行政機構には、地域住民が抱える課題を解決できる強い力がある。しかし、その強い力を全力で発揮するためには、地域住民についての情報をつかむ必要がある。ところが、福島県の行政機構が共通して持っている特徴は、地域住民とコミュニケートすることを避けるということ。ある市役所の復興担当者の職員は、15km しか離れていない復興公営住宅について､全く情報を持っていない｡さらに付け加えると、ある市の職員と言っても、煎じ詰めると前述した、狭い単位の帰属意識に縛られているため、外部でのコミュニケーションと協力は成り立ちにくいのである。

***特徴③全ての道がローマに通じていない***

　宮城県と福島県を比べると、宮城県は、県内の主要な道路は全て仙台市に向かって集中している。ところが、福島県は、違う。おそらくそのような交通の中心地は、福島では、郡山市になるであろう。しかし、郡山市は行政の中心ではない。いわき市内を動いていても、道路はいわき市役所がある平に向けて集中していない。このような交通事情も、復興を促進するために欠かせない、効果的な情報の集散を妨げる。

**最後に**

　ここで、先ほどのガイドラインに戻る。このような福島が抱える歴史的・社会的な状況を考えに入れると、その復興が迅速に進むとは考えにくい。そうなると、どうしても長期戦になる。その際に、最も警戒すべきなのは、支援する方々が疲弊すること。それを避けるためにも、過大な期待を持つことは避けた方が好ましい。

　また、支援する対象も、基本的に閉じた地域となるだろう。その支援先の地域と、その周囲の別の地域との関係は、複雑なものがあり、過去のしがらみも多いことが考えられる。どこかの地域と一体化すると、自動的に、周囲の地域は支援者の皆さまに対して、ネガティヴなエネルギーを放射してくる。これも、支援者の皆さまを疲弊させることにつながりかねない。良い意味での距離感覚と平衡感覚を働かせていただければと思う。そのためにも、広い視野をもって動いている全国組織と連携することが必要。それによって、上で述べた距離感覚と平衡感覚が磨かれることになるはずだ。また、支援する際には、常に俯瞰する視点を持つことが欠かせない。

## 市民としての仙台の皆さんがなしうること

**【仙台と沿岸部】**

　仙台市は､沿岸部の被災地と比較して突出して恵まれていることが、以下の表からわかってくる｡表は､仙台市と沿岸部の福島県いわき市、宮城県南三陸町、岩手県釜石市の人口、面積、最寄駅から東京までの所要時間、映画館、県庁までの距離、大学数を比較したもの。

| | 人口（単位:人） | 面積（単位:㎢） | 面積 1 ㎢当たりの人口(単位:人) | 最寄駅から東京までの所要時間 |
|---|---|---|---|---|
| 仙 台 市（宮城県） | 1,075,813 | 786.3 | 1368.2 | 1 時間 46 分 |
| いわき市（福島県） | 324,370 | 1231.3 | 263.4 | 2 時間 22 分 |
| 南三陸町（宮城県） | 15,066 | 163.7 | 19.7 | 4 時間 41 分 |
| 釜 石 市（岩手県） | 35,846 | 441.3 | 81.3 | 4 時間 59 分 |

| | 映画館までの距離（単位:km） | 県庁までの距離（単位:km） | 大学数 |
|---|---|---|---|
| 仙台市 | 1.5 | 6.0 | 10 |
| いわき市 | 12.9 | 136.3 | 2 |
| 南三陸町 | 45.0 | 89.9 | 0 |
| 釜石市 | 123.5 | 124.6 | 0 |

　仙台市は、圧倒的に人口密度が高く、そして、行政や文化の拠点との間の距離が近く、更に高等教育機関に恵まれている。結果として、次のような特徴が生まれてくる。

**《仙台市の特徴》**

・新しい情報が入手かつ伝播しやすい
・その情報を加工して、発信する技術も学びやすい
・新しい情報に常に受け入れ、発信する結果として、広い視野や寛容性をもちやすい

　このような特徴を持った都市は、沿岸部にはない。仙台にお住まいの方々は、自分たちにそれだけの情報やコミュニケーションについての自然なストックをお持ちになっていることに気付いていないかもしれないが、それは、沿岸部の被災者の方々を支援する際に、大きなテコの役割を果たしてくれる。

**【皆さんへのヒント】**

　前述のような特徴を持つ市民としての仙台市の皆さまがなしうることは、①関心を持ち、②復興公営住宅を訪れ、③できるなら、何かの形で実践に関わっていただくということに尽きる。特に、ぜひ沿岸部の復興公営住宅を訪れていただきたい。これを強調するのは、次のような理由があるからである。

・現場で五感を使って、復興公営住宅を体験するのと、活字や映像だけを通して見聞きするのは決定的に違う。
・皆さんが来ていただけるだけで、見えない距離の壁に取り囲まれ、孤立しがちな復興公営住宅の入居者の方々は､エネルギーをもらい、そして､「自分たちは忘れられていない」という実感をもつことができる。
・さらに、復興公営住宅のコミュニティづくりの支援にあたっている人たち自身も、この５年近い長期戦の中で、くたびれてきている。その人たちにとっても、大きな励みになる。

　沿岸部被災地の人々が帰属の対象とする単位は、小さい。そして、帰属する単位の外側の人たちとコミュニケートする経験を積んでいない。そのため、帰属する単位を越えたコミュニケーションと協力が難しい。この事実は、復興公営住宅の入居者の方々、さらには支援にあたっている人々にのしかかる。しかし、仙台の人々は、コミュニケーションをする能力に長け、広い視野をお持ちのため、狭い空間としがらみを越えて、協力することができるはずである。

**ある復興公営住宅の建築現場**
全く何もない場所に、復興公営住宅が作られている。
周囲への威圧感は大きい。

## カリタス石巻ベース活動紹介（4 月･5 月）

カリタス石巻ベース

カリタス石巻ベースの４月、５月の活動の様子をご紹介します。

最初に４月、５月に行った様々なイベントについてです。４月４日と５日、すすきだ音楽隊の方々が、オープンスペースとひびき仮設団地のお茶会の中で、演奏会をしてくださいました。

今回の演奏会で使用された楽器は、マリンバとお琴と三味線。普段、聞くことがないプロの演奏に、皆さんが引き込まれていました。歌う前には、「日頃のストレスを発散」する意味も演奏会に含まれていたことから、背伸びをしながらのストレッチを取り入れてくださいました。演奏の合間には、楽器のお話しもあり、楽器に親しみを感じることもできました。最後には、「ふるさと」を歌って終了となりました。

演奏会の後は、お茶会。演奏者やボランティアの方々を交えながら、普段とは違うお話しの時間を持つことができました。すすきだ音楽隊の皆さん、ありがとうございました。

仮設団地での演奏会の様子

14 日には、オープンスペースを臨時休業し、お花見を開催しました。オープンスペースの利用者を対象に参加者を募集したところ、あっという間に定員に達する人気ぶりでした。

当日の天気は、雨から曇りへ。ベースの車に乗り込んでいざ出発！目的地の滝山公園（東松島市）に到着すると、きれいな桜が出迎えてくれました。

参加された方の中には初めて滝山公園に来られた方もおり、きれいな桜に心が満たされたようでした。

30 分ほど公園でお散歩をした後は、松島方面をドライブしてベースに戻りました。

その後、ホールでお弁当。桜の下で食べられなかったのが残念でしたが、普段とは違う半日を過ごして、参加された方々が喜んでくださってなによりでした。

満開の桜をみんなで楽しむことができました。

25 日は、東京いのちの電話のスタッフによる手芸会が行われました。今回の作品は、「うちわ」と「しおり」。毎回素敵な押し花を準備してくださり、参加者は自分の作品に使用する花を選び、その後、デザインをして、ラミネートをかけ、思い思いに作品を仕上げていました。

中には、今回初めて手芸会に参加された方もおられ、復興公営住宅に住んでいると話されました。これをきっかけにまた、来ていただけたらと思いました。

東京いのちの電話のスタッフの皆さん、ありがとうございました。

続いて５月は、４日にベースで映画会を開催しました。今のスタッフになってから初めての試みでした。お昼に一度、オープンスペースを閉じて、会場設定を行い、ベースをフル活用しての映画会となりました。

映画のタイトルは「幸福の黄色いハンカチ」。笑いあり、涙ありの時間を、参加された方々がそれぞれに過ごしておられました。

映画の後のお茶会では、いろいろな話題に花が咲いていました。次回の映画のリクエストもあったので、企画して、また実施できたらと思います。

次にオープンスペースやお茶会での一場面をご紹介します。

４月 14 日に発生した熊本地震。その数日後、オープンスペースに来られたある女性とお話しした時のことです。熊本地震の話になった時、「私は、大震災の時にたくさんの方に助けてもらった。けど、遠くで大変なことが起こっても、この歳では行けないし･･･。だから、いろんなとこに設置されている、「熊本地震」の献金箱に出来るだけ寄付をするようにしているの。」と話す女性。遠い熊本の方々に思いを寄せる石巻の人々の思いにふれた一場面でした。改めて、被災された方々に謹んでお見舞い申し上げます。

５月 14 日、最近オープンスペースで流行っている物。それは、“折り紙で作るバラ”です。

ボランティアの方が持ってこられると、「作り方教えて！」と、折り紙講習会が始まりました。真剣に折りながら、いつものお話モードとは違う利用者の方々。

ひとつのバラを完成させるのに、30 分以上かかるようでしたが、たくさん作られていました。ある方は、一枚の折り紙でバラの花が完成することに不思議なご様子で、また、ある方は、ボランティアさんが帰る前までに作り方をマスターすると目標を立てているようで、皆さんそれぞれにバラ作りを楽しまれていました。

完成した作品の一部は、オープンスペースに掲示し、他の作品とともに、オープンスペースを鮮やかにかわいらしく彩ってくれています。

５月 25 日の仮設住宅でのお茶会では、ボランティアさんが 3、４日で勉強した手品を、お話の合間に披露してくださり、皆さん真剣に手元を見て、どこに仕掛けがあるか研究していました。お茶会と手品で、楽しい時間を過ごせました。

ボランティアに参加してくださる方々によって、石巻ベースの活動は支えられていることを改めて感じることの多い４月、５月でした。

ボランティアさんが来てくださることは、オープンスペースの利用者さんや仮設住宅にお住まいの方々にとって、いつもはお話ししないようなことも話されたり、小さな目標を見つけて手作業をしたりと、普段の生活の中において、良い刺激となっているようです。そして、ベーススタッフにとっても、とても大切な力となっております。

今後とも多くの方のご協力をお待ちしております。どうぞよろしくお願いいたします。

【石巻ベース活動参加条件】

☆高校生以上の健康な方。高校生は保護者(引率者)同伴とします。

☆ベースへの移動時間を含めず、朝から夕方まで活動できる日が、１日以上あること。日帰りでの活動も可能です。

☆活動開始までに必ず地元の社会福祉協議会でボランティア保険（天災タイプ）に加入していること。

☆活動期間中は、ベースに宿泊となります。車中泊は、お断りしています。

◎日曜日は定休日となっておりますので、日曜日を除く日程で、ご参加ください。

６月の活動予定は、以下のようになっております。お時間がございましたら、まずは仙台教区サポートセンターまでお問い合わせいただければ幸いです。よろしくお願いいたします。

《6 月の活動予定と日程》

●オープンスペース　10:00～16:00（日曜定休日)

※６月より、オープンスペースの時間が、10 時～16 時となります。

一階ホールでのお茶っこ活動がメインとなります。毎日来られる常連さんから初めて来られる方まで、日々いろいろな方が利用されています。来られる利用者さんと関わってくださる方のご参加を、お待ちしております。

＊4 日（土)、利用者の方からご依頼があり、花植えのお手伝いに伺う予定です。

●仮設でのお茶会

３日（金）東北電子

８日（水）午前　押切沼　午後　前山

15 日（水）南境第７団地（※開催曜日を変更しています。）

17 日（金）東北電子

22 日（水）午前　押切沼　午後　前山

毎週火曜日　ひびき工業団地

(※ひびき団地での開催時間が、10:00～15:00 に変更となります。)

●スマイルサポート(花壇整備、道路清掃)

６月上旬、ベース近辺の花壇にマリーゴールドを植える予定です。

## ◆仙台教区サポートセンターからのお知らせ◆

2016 年 5 月 25 日(水)より、カリタス米川ベースでの活動申し込みは、ベースで直接受け付けしております。詳細については、米川ベースのブログをご覧ください。石巻ベースにつきましては、これまで通り、仙台教区サポートセンターで受け付けしております。

### 熊本地震被災者支援のお願い
### ボランティア募集

「カリタス福岡・熊本支援センター（くまセン)」(熊本県菊池市内)では、被災地におけるボランティアを募集しています。被災者の方々が求めておられる様々なニーズに応じるため、地域の、特に西原村の社会福祉協議会などのボランティア活動に参加します。カトリック教会の施設に宿泊し、そこからボランティアに向かいます。皆さまからのお申し込みをお待ちしています。

詳細は、カトリック福岡教区のホームページをご覧ください。

【活動内容】

現地でのニーズは場所によって様々です。また刻一刻と状況が変化していますので、ボランティアが到着された時点でもニーズが変化します。状況に応じて柔軟に対応できることが望まれます。

また、活動内容は専門職・技術が活かせない場合もあります。

《主な活動内容》

① 避難所での支援物資の仕分け、分配、誘導、炊き出し

② 地域の片付け

③ ニーズ調査

【参加条件】

☆高校生以上（未成年者は保護者の同意が必要です）

☆活動開始までに必ず地元の社会福祉協議会でボランティア保険天災タイプ）にご加入ください。

☆期間中はセンター（くまセン）に宿泊していただきます。

☆センターまでの移動時間を含めず、朝から夕方まで活動できる日が一日以上あること。原則６泊７日まで。長期ボランティアをご希望の方はお問い合わせください。

【申し込みの流れ】

１.インターネット環境がある場合→カトリック福岡教区のホームページへ

◎ボランティア募集要項についてよくお読みいただき、内容についてご理解いただきましたら、ボランティア申し込みフォームにご記入の上、カリタス福岡・熊本支援センターのボランティア受付までお送りください。

メールの場合⇒　kumasen.vol@gmail.com

FAX の場合⇒　０９６８-２４-８２０９

２. インターネット環境がない場合→電話での受付

カリタス福岡・熊本支援センターのボランティア受付窓口にてお受けいたします。０８０－２７０９－０２３７(受付時間　８時～１９時)

カリタス福岡・熊本支援センター＜ボランティア受付窓口＞：

０８０－２７０９－０２３７（お問い合わせは８時～19 時までにお願いします。）ボランティア受付 E-mail：kumasen.vol@gmail.com

カリタス福岡・熊本支援センター（くまセン）に関するお問合せ：

０８０－２７０３－０２６６（お問い合わせは８時～19 時までにお願いします。）

※物資支援に関しては「カトリック福岡教区　熊本地震被災者支援室」にお問合せください。０８０－１７６１－４１５０